

つながる医療

泌尿器科

泌尿器科 第一手術室診療部長

たかぎ きみあき

高木 公暁 医師



● 卒業年
2006年

● 資格

日本泌尿器科学会専門医・指導医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

Da Vinci Console surgeon、緩和ケア研修会修了

臨床研修指導医講習会修了、がんのリハビリテーション研修修了

尿路結石に対する手術について教えてください

尿路結石に対しては体外衝撃波結石破砕術(ESWL)、経尿道的尿管碎石術(TUL)、経皮的腎碎石術(PNL)を行っています。ESWLでは対外から衝撃波を与えて碎石しますが、結石の大きさや硬さによっては治療困難な場合があります。TULは麻酔下に尿道から内視鏡を挿入して直接結石をモニターで確認しながらレーザーで破砕します。破砕片は鉗子で除去するため確実な碎石が可能です。当院では軟性尿管鏡を採用しており腎結石に対しての治療も可能です。PNLは内視鏡を用いた背部から経皮的に腎内へアプローチする手術法でサンゴ状結石など大きな腎結石が対象となります。

術式	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
経尿道的尿管碎石術(TUL)	22	51	65	60	40
体外衝撃波結石破砕術(ESWL)	88	64	58	79	73
経皮的腎碎石術(PNL)	0	1	3	3	1

※2019年は1月～10月の集計

今後の活動についての目標や展望を教えてください

がん患者さまの中でも特に透析をされている方やその他の合併症を伴う方の治療に積極的に取り組んでいきたいと思っています。治療について、なるべく制限のないように、再発してしまった場合でも治療の選択肢を広げられるように最新の技術・知見を取り入れていきたいと思っています。また、地域の皆さまに泌尿器科疾患についてより深く知っていただくため、講演会や勉強会などの開催も検討しています。そして、地域の診療所や病院の先生方とも連携を取り、1人でも多くの患者さまの回復や、社会復帰に貢献できればと思っています。

ワンポイントアドバイス



尿路結石の8割はシュウ酸カルシウムによるものです。紅茶やほうれん草、チョコレートなどのシュウ酸を多く含む食品を取り過ぎると結石ができやすくなります。

尿路結石は生活習慣病が原因で起こります。普段から水分を取り、バランスの良い食生活を心掛けましょう。また、尿に血が混じるなどの症状がある場合は、痛みを伴わなくても早めに受診していただくことをお勧めします。



泌尿器科のアピールポイントを教えてください

当科では現在日本がん治療認定機構のがん治療認定医が3名おり治療にあたっています。また、泌尿器科専門医を含む5名の医師が常勤し、日本泌尿器科学会専門医教育施設にも認定されています。悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術・尿路結石に対する内視鏡手術を積極的に行っています。

腹腔鏡下手術について教えてください

腹腔鏡下手術とは、お腹に小さな穴を開けてカメラや手術器具をその穴から挿入し、モニターに映し出された映像を見ながら行う手術です。レンズで拡大することにより細かい血管などの構造まで見ることができ、非常に繊細な操作ができます。開腹手術と比べて傷口が小さいため術後の回復が早いなど、体に対する負担が軽いというメリットがあります。



腹腔鏡下手術の様子

腹腔鏡下手術はいつから何件ぐらい行っていますか？

当科では2015年9月より開始し、副腎・腎(部分切除含む)・腎盂尿管で対応可能な症例はすべて腹腔鏡下で行っています。

術式		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
副腎腫瘍	開腹	0	0	0	0	1
	腹腔鏡下	0	3	1	2	5
腎がん	開腹	15	3	3	3	1
	腹腔鏡下	3	6	9	13	8
腎盂尿管がん	開腹	11	3	0	1	0
	腹腔鏡下	0	5	8	8	5
その他の腹腔鏡下手術		0	2	4	1	2

※2019年は1月～10月の集計

● 医師を志した理由は何ですか？

子供のころから体も丈夫でしたし、大きな病気をしたこともないので、感動的なエピソードは特にありません(笑)。

両親が薬剤師だったため、両親の勤める病院にはよく行っていました。そんな環境でしたので自然と医療の道をめざすようになりました。泌尿器科の医師になったのは学生時代に実習に行った病院の泌尿器科に、サッカー部の先輩がいたことがきっかけです。最初から泌尿器科医になるつもりでその病院の研修を希望しました。

● 診察の際、大切にしている事は何ですか？

話をするときには、なるべくパソコンを見ないようにしています。患者さまやご家族さまのお顔を正面から見て話をするように心がけています。泌尿器科の患者さまはご高齢の男性の方が比較的多い傾向にあります。説明する時はなるべくご本人だけにしないようにご家族さまにも同席いただいて、わかりやすい言葉を用いて説明しています。不安を少しでも取り除けるように、外来・病棟スタッフ全員でフォローしています。

● 今までで特に印象に残っている症例はありますか？

具体的に症例をあげることはできませんが、やはり医師になって1年目に携わった患者さまのことはよく覚えています。

● 休みの日は何をして過ごしていますか？

小4と2歳の息子がいるので、時々一緒にプールに行ったりしています。今は特に運動する機会がありませんが、学生時代はサッカー部でしたので、サッカー観戦には年に数回行きます。FC岐阜のファンなので、岐阜まで応援に行くこともあります。右の写真は東京の国立競技場での最後の公式戦を親子で行った時の写真です。



詳しくは、地域医療連携室までお電話ください。

tel.0586-26-2366 (直通) fax.0586-24-9999

tel.0586-72-1211 (代表) ●受付時間：月～金 8:30～19:00 土 8:30～12:30 ※祝日、年末年始を除く

2019年11月発行